

## 第 9 9 期 計 算 書 類

1. 貸借対照表
2. 損益計算書
3. 株主資本等変動計算書
4. 個別注記表

日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社

# 貸 借 対 照 表

(平成29年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
<b>流 動 資 産</b>	<b>165,227</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>91,711</b>
現 金 預 金	1,248	支 払 手 形	5,431
預 け 金	5,788	電 子 記 録 債 務	23,373
受 取 手 形	1,922	工 事 未 払 金	30,372
電 子 記 録 債 権	2,969	短 期 借 入 金	6,800
完 成 工 事 未 収 入 金	135,075	リ ー ス 債 務	31
売 掛 金	1,590	未 払 金	3,567
製 品	660	未 払 費 用	2,248
未 成 工 事 支 出 金	6,014	未 払 法 人 税 等	2,065
材 料 貯 蔵 品	5,415	未 成 工 事 受 入 金	1,398
前 払 費 用	209	預 り 金	6,935
未 収 入 金	239	賞 与 引 当 金	8,336
立 替 金	359	完 成 工 事 補 償 引 当 金	415
繰 延 税 金 資 産	3,342	工 事 損 失 引 当 金	120
そ の 他	404	設 備 関 係 支 払 手 形	287
貸 倒 引 当 金	△ 15	そ の 他	328
<b>固 定 資 産</b>	<b>40,773</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>16,104</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>33,313</b>	リ ー ス 債 務	15
建 物	10,217	再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 負 債	2,318
構 築 物	444	退 職 給 付 引 当 金	13,725
機 械 及 び 装 置	3,863	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	26
船 舶	6	そ の 他	17
車 両 運 搬 具	45		
工 具 器 具 ・ 備 品	812	<b>負 債 合 計</b>	<b>107,815</b>
土 地	17,492	<b>純 資 産 の 部</b>	
リ ー ス 資 産	44	<b>株 主 資 本</b>	<b>93,846</b>
建 設 仮 勘 定	387	資 本 金	5,468
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>318</b>	資 本 剰 余 金	27,239
特 許 権	1	資 本 準 備 金	1,873
ソ フ ト ウ ェ ア	238	そ の 他 資 本 剰 余 金	25,366
電 話 加 入 権	70	<b>利 益 剰 余 金</b>	<b>61,138</b>
そ の 他	8	そ の 他 利 益 剰 余 金	61,138
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>7,140</b>	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	122
投 資 有 価 証 券	757	繰 越 利 益 剰 余 金	61,015
関 係 会 社 株 式	946	<b>評 価 ・ 換 算 差 額 等</b>	<b>4,337</b>
出 資 金	250	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	301
破 産 債 権、更 生 債 権 等	30	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 2
敷 金 及 び 保 証 金	641	土 地 再 評 価 差 額 金	4,038
長 期 前 払 費 用	216		
前 払 年 金 費 用	340	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>98,184</b>
繰 延 税 金 資 産	4,031	<b>負 債 純 資 産 合 計</b>	<b>206,000</b>
そ の 他	25		
貸 倒 引 当 金	△ 99		
<b>資 産 合 計</b>	<b>206,000</b>		

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(平成28年 4月 1日から)  
(平成29年 3月 31日まで)

	百万円	百万円
売上高		285,565
売上原価		254,543
売上総利益		31,022
販売費及び一般管理費		14,022
営業利益		16,999
営業外収益		
受取利息	9	
受取配当金	129	
受取賃貸料	49	
保険事務手数料	40	
貸倒引当金戻入額	14	
雑収入	87	331
営業外費用		
支払利息	24	
売上債権売却損	15	
支払補償費	73	
雑支出	24	137
経常利益		17,193
特別利益		
固定資産売却益	1	
その他	0	1
特別損失		
固定資産売却損	10	
固定資産除却損	119	
ゴルフ会員権評価損	1	
減損損失	697	
その他	0	829
税引前当期純利益		16,366
法人税、住民税及び事業税	4,124	
法人税等調整額	561	4,685
当期純利益		11,680

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(平成28年 4月 1日から  
平成29年 3月31日まで)

	株 主 資 本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		その他利益剰余金			固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計						
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
当 期 首 残 高	5,468	1,873	25,366	27,239	128	52,348	52,477	85,185
当 期 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当						△ 3,401	△ 3,401	△ 3,401
固定資産圧縮積立金の取崩					△ 5	5	—	—
当 期 純 利 益						11,680	11,680	11,680
土地再評価差額金の取崩						382	382	382
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								—
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	△ 5	8,666	8,661	8,661
当 期 末 残 高	5,468	1,873	25,366	27,239	122	61,015	61,138	93,846

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
当 期 首 残 高	222	△ 0	4,421	4,643	89,828
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当					△ 3,401
固定資産圧縮積立金の取崩					—
当 期 純 利 益					11,680
土地再評価差額金の取崩					382
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	79	△ 2	△ 382	△ 305	△ 305
当 期 変 動 額 合 計	79	△ 2	△ 382	△ 305	8,355
当 期 末 残 高	301	△ 2	4,038	4,337	98,184

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 個別注記表

## I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券

- ①子会社株式及び関連会社株式……… 移動平均法による原価法
- ②その他有価証券 時価のあるもの… 決算日の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、  
移動平均法により算定)
- 時価のないもの… 移動平均法による原価法

#### (2) デリバティブ

時価法によっております。

#### (3) たな卸資産

未成工事支出金の評価の方法は、個別法による原価法、製品及び材料貯蔵品の評価の方法は、主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法によっております。

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ20百万円増加しております。

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、次回賞与支給見込額を計上しております。

#### (3) 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、完成工事高に対する将来の見積り補償額に基づいて計上しております。

#### (4) 工事損失引当金

受注工事の損失発生に備えるため、当事業年度末手持ち工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつ金額を合理的に見積もることのできる工事について、損失見積額を計上しております。

#### (5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。

なお、当社は平成26年10月1日をもって新日鐵住金(株)の完全子会社7社と経営統合をいたしました。当事業年度末現在において人事処遇制度が統一されていないため、旧各社の制度が引き続き適用されております。

##### ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

##### ② 過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により費用処理することとしております。統合会社における過去勤務費用は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（旧日鉄住金プラント(株)：13年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。統合各社における数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（旧日鉄住金プラント㈱：13年、旧日鉄住金関西工業㈱：17年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、平成26年10月1日に旧太平工業㈱と旧㈱日鉄エレクトクスが採用していた退職給付制度を統一しておりますが、統合前に発生した数理計算上の差異は、旧太平工業㈱については7年、旧㈱日鉄エレクトクスについては10年の定額法により発生翌事業年度から費用処理することとしております。

(6) 役員退職慰労引当金

役員の退職金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(追加情報)

当事業年度において、役員報酬として一本化していた退職慰労金部分について報酬部分との切り離しを決議し、退職慰労金に係る内規を制定したことに伴い役員退職慰労引当金を計上しております。

4. 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の現実性の認められる工事については工事進行基準(工事の進捗度の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は139,876百万円であります。

5. その他計算書類作成のための基本となる事項

(1) ヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段 : 為替予約

ヘッジ対象 : 外貨建債権債務等

b. ヘッジ手段 : 金利スワップ

ヘッジ対象 : 金利変動等によるキャッシュ・フロー変動の可能性のある負債(借入金)のうち、キャッシュ・フローが固定され、その変動が回避されるもの

③ ヘッジ方針

当社の社内規程である「デリバティブ取引管理規程」に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

なお、当該規程にて、デリバティブ取引は実需に伴うリスクヘッジのための取引に限定し、売買益を目的とした投機的な取引は一切行わない方針としております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間にかかるキャッシュ・フロー変動額の累計又は為替相場の変動を比較する方法によっております。

ただし、振当処理によっている為替予約及び特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(3) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

6. 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。

II. 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産減価償却累計額 61,932 百万円
2. 保証債務  
銀行借入金等に対する債務保証  
諸口（住宅ローン） 11 百万円
3. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務  
関係会社に対する短期金銭債権 99,814 百万円  
関係会社に対する短期金銭債務 7,279 百万円
4. 事業用土地再評価  
土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成11年3月31日改正）に基づき、事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
- 再評価を行った年月日 平成12年3月31日  
同法律第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める路線価及び路線価のない土地は第2条第3号に定める固定資産税評価額に基づいて、奥行価格補正等の合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った事業用土地の当事業年度末における時価の合計と当該事業用土地の再評価後の帳簿価格の合計額との差額は5,312百万円となっております。

III. 損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引高  
売上高 180,621 百万円  
仕入高 5,199 百万円  
営業取引以外による取引高の総額 2,197 百万円
2. 研究開発費  
研究開発費の総額 322 百万円

3. 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	金額(百万円)
処分	土地・建物他	大阪府堺市他	463
遊休	土地	兵庫県姫路市他	234
合計			697

処分資産については、売却又は建物等の撤去を行うこととなったため、遊休資産については、今後の利用価値もないため、減損損失を認識しました。

減損損失の内訳は土地598百万円、建物等98百万円であります。

なお、当該減損については統合に伴う資産利用の見直しを主体とするものであります。

(グルーピングの方法)

事業部・支店別を基本単位とし、将来の使用が見込まれていない遊休資産については、個々の物件単位でグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

処分資産は売却予定額等による正味売却価額を適用しており、遊休資産は主として公示価格に基づいた正味売却価額を適用しております。

#### IV. 税効果会計に関する注記

##### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	35 百万円
賞与引当金	2,934
退職給付引当金	4,200
完成工事補償引当金	129
工事損失引当金	37
ゴルフ会員権評価損	54
減損損失	430
未払事業税	194
その他	345
繰延税金資産小計	8,358
評価性引当額	△ 505
繰延税金資産合計	7,853
繰延税金負債	
土地再評価差額金	△ 2,318
その他有価証券評価差額金	△ 133
その他	△ 346
繰延税金負債合計	△ 2,797
繰延税金資産の純額	5,055



V. 関連当事者との取引に関する注記

1. 親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係	
親会社	新日鐵住金株式会社	東京都千代田区	419,524	鉄鋼の製造及び販売	100%	同社より、機械・電気設備及び計測制御システムの設計・製作・据付及び運転・整備、建築土木工事を受注	
						取引の内容	取引金額 (百万円)
		建設工事の受注及び活性炭等の販売	180,268	完成工事未収入金等	93,654		
		資金の預入	1,991	未成工事受入金	37		
		受取利息	6	預け金	5,105		

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
- (1) 建設工事の受注及び活性炭等の販売に関しては、一般取引と同様に個別案件ごとに当社見積を提示し、価格交渉の上決定しております。
- (2) 資金の預託については、当社の余剰資金運用の一環として行っているものであり、随時、預託及び回収が可能なものであります。なお、利率については、市場金利を勘案し、一般の取引条件と同様に決定しております。

2. 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係			
親会社の子会社	新日鐵住金ステンレス株式会社	東京都千代田区	5,000	ステンレス鋼の製造および販売	なし	同社より、機械・電気設備及び計測制御システムの設計・製作・据付及び運転・整備、建築土木工事を受注			
						取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
	建設工事の受注	6,048	完成工事未収入金等	2,678					
	北海製鉄株式会社	北海道室蘭市	80	銑鉄・コークス・化成品の製造・販売	なし	同社より、機械・電気設備及び計測制御システムの設計・製作・据付及び運転・整備、建築土木工事を受注			
						取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						建設工事の受注	3,575	完成工事未収入金等	2,537

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針  
建設工事の受注に関しては、一般取引と同様に個別案件ごとに当社見積を提示し、価格交渉の上決定しております。

VI. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 721円63銭
2. 1株当たり当期純利益 85円85銭